

## 「福井県と三重県との若者交流事業」について

三重県戦略企画部企画課

### 1 「福井県と三重県との若者交流事業」について

ふるさと知事ネットワークでは、三重県を含む地勢の異なる地方の13県が「ローカル・アンド・ローカル」の発想で人や地域の新しいネットワークをつくり、地方自治の新しいモデルをつくるための活動を行っています。

今回、本ネットワークに参加する福井県と三重県との共同事業として、地域づくりに取り組む両県の若者グループが日頃の活動について意見交換等を行うことで関係を深めていただくことを目的に交流事業を開催しました。

※「福井県と三重県との若者交流事業」

日時：平成26年9月6日（土）～7日（日）

場所：福井県敦賀市、鯖江市等

主催者：福井県、三重県

参加者：両県の若者グループ 9月6日（土） 三重県 18人、福井県 13人  
9月7日（日） 三重県 18人、福井県 18人

### 2 交流の概要

<9月6日（土）>

#### ■敦賀市において、空き家の利活用ワークショップを実施

- ・空き家利活用したモデルハウス「朱種」において、ワークショップを実施しました。

○北山大志郎氏から自らの空き家マッチングの活動や空き家利活用のモデルハウス「朱種」について紹介いただきました。



○家の中を見たり、家の外に出て近くの海を散策するなど「朱種」の周辺状況も把握した後、具体的な利活用方法についてグループごとに検討しました。



○各グループで検討した「朱種」の活用方法を発表しました。



<9/7 (日)> 参加者 (三重県18名、福井県18名、)

## ■商店街学生活動拠点「らてんぽ」を見学しました【8:45~9:10】

○商店街の活性化に関する取組についての説明を伺いました。

・以前、この商店街にはスーパーがあり、食料品などを購入する客など多くの人通りがあったが、そのスーパーがなくなり、人が来なくなった。

・地元の人、特にお年寄りが食料品を買う場所、食事をする場所が無くなり困っていた。そのような声を聞いて、ここで食料品を扱うようになった。

・「らてんぽ」は学生の活動拠点として若者が集まっているいろいろな活動をするなど、少しずつ人も集まり、賑わうようになった。



## ■質問力を磨く 聞く訊く聴くワークショップを開催しました【9:30~12:00】 鯖江公民館

○地域活動をしている団体が活動発表を行いました。

### 【活動発表者】

#### ◆学生団体with



・鯖江市内の商店街活性化に取り組んでいる学生団体

・鯖江市中心市街地の商店街の空き店舗を活用した学生連携拠点施設「らてんぽ」を運営したり、全国の学生が鯖江に集まり、よりよい市にするための事業を考える「鯖江市地域活性化プランコンテスト」の実行委員会のメンバーとして活動している。

#### ◆TSUGI

- ・鯖江市河和田地区において、アートを通じた地域づくりに取り組んでいた県外の大学生たちが、卒業後もそのまま河和田地区に就職、移住し、街を盛り上げようと、平成25年に結成した若者集団
- ・期間限定のカフェの運営、ワークショップやトークイベントの開催、ウェブマガジンの編集などを通して、福井の伝統技術の奥深さ、産地の魅力を知ってもらえるよう活動している。

#### ◆「あぜみち」

- ・「遊びゴゴロを持って」「漸進的に」「みんなと」「地域活性」を目標とし、福井県の越

前市を拠点として活動している団体。越前市で毎年 2,000 人規模の地域イベントなどを開催している。

◆皇學館大学地域社会研究会

- ・現代日本社会学部の学生を中心に、イベントを企画したり、参加したり地域の活性化を実践。商店街と組んで出店を出したり、三重県のお茶を使った商品（和紅茶）を開発したりしている。

◆おでかけかめやま

- ・亀山に住む若者と亀山に興味を持つ若者がゆっくり居られる場所をコミュニティスペースとして整備。行政の支援を受けず、民間による運営を行っている。
- ・観光客が、トイレがなくて困っていることを聞き、24時間開放の公衆トイレも設置



○地域活動を行っている4団体が活動紹介を行った後、グループごとに発表団体に対し疑問に思ったことや自分の活動との相違点など自由に質問を行い、質問に対する答えから発見した取組のユニークな点や参考となった点を発表団体に伝えるなど、互いの今後の活動の参考としました。



○集合写真

